

# 令和7年播種（令和8年産）麦類作況試験生育状況（古川農試）〔2月10日付調査結果〕

\* 2月13日に調査を実施（幼穂長と葉数は2月9日に調査）

## 1 気象概況〔12月中旬～2月中旬〕(図1)

- 平均気温は、12月第4、5半旬で平年より2℃程度高く、1月第5、第6半旬で平年より2～3℃程度低かった。
- 日照時間は、12月第4、6半旬、1月第4、5半旬が平年より多照、12月第5半旬、1月第2、3、6半旬、2月第1、2半旬が平年より寡照であった。
- 降水量は、12月第4、6半旬、1月第2半旬、2月第1、2半旬が平年より多かった。1月21日～2月4日の15日間、積雪が続いた。

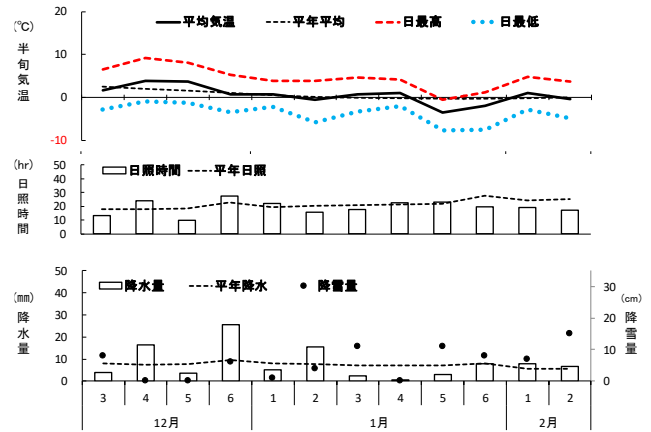


図1 気象経過 古川アメダス

## 2 生育概況

### 1) 2月13日現在の生育状況（表1）

#### 10月中旬播種区

- 草丈は、シュンライが6.6cm、ミノリムギが8.1cm、シラネコムギが9.5cm、夏黄金が8.2cmで平年を下回った。ホワイトファイバーは7.1cmで前年を下回った。
- 茎数は、シュンライが456本/m<sup>2</sup>、ミノリムギが595本/m<sup>2</sup>、夏黄金が656本/m<sup>2</sup>で平年を下回った。シラネコムギが915本/m<sup>2</sup>で平年をやや下回った。ホワイトファイバーは467本/m<sup>2</sup>で前年を下回った。
- 葉数は、シュンライが5.9枚で平年差-0.2枚、ミノリムギが6.3枚で平年差-0.1枚、ホワイトファイバーは5.8枚で前年差-1.0枚、シラネコムギが6.0枚で平年差-0.8枚、夏黄金が6.4枚で平年差+0.2枚であった。
- 葉色（SPAD値）は、シュンライが38.1、ミノリムギが44.4、ホワイトファイバーが41.7、シラネコムギが40.5、夏黄金が47.1であった。

#### 10月下旬播種区

- 草丈は、シュンライが5.3cm、ミノリムギが5.6cm、シラネコムギが8.2cm、夏黄金が6.5cmで平年を下回った。ホワイトファイバーは5.4cmで前年を下回った。
- 茎数は、シュンライが243本/m<sup>2</sup>、ミノリムギが167本/m<sup>2</sup>、シラネコムギが247本/m<sup>2</sup>、夏黄金が239本/m<sup>2</sup>で平年を下回った。ホワイトファイバーは331本/m<sup>2</sup>で前年を下回った。
- 葉数は、シュンライが4.6枚で平年差+0.1枚、ミノリムギが4.5枚で平年差-0.3枚、ホワイトファイバーは4.7枚で前年差-0.9枚、シラネコムギが4.8枚で平年差-0.1枚、夏黄金が5.0枚で平年差+0.5枚であった。
- 葉色（SPAD値）は、シュンライが43.4、ミノリムギが45.4、ホワイトファイバーが46.3、シラネコムギが40.6、夏黄金が43.1であった。

### 2) 2月9日現在の幼穂長及び幼穂分化程度（表2）

#### 10月中旬播種区

- 大麦の幼穂長は、シュンライが1.3mmで平年差-0.4mm、ミノリムギが0.8mmで平年差-0.7mm、ホワイトファイバーが1.0mmで前年差-1.4mmであった。幼穂形成期始期はシュンライで2月4日、ホワイトファイバーで2月9日に達している。
- 小麦の幼穂長は、両品種0.2mmで平年差-0.2mmであった。幼穂形成始期には達していない。

#### 10月下旬播種区

- 大麦の幼穂長は、シュンライが0.5mmで平年差-0.3mm、ミノリムギが0.3mmで平年差-0.4mm、ホ

ホワイトファイバーが0.4mmで前年差-0.6mmであった。幼穂形成期始期には達していない。

- ・小麦の幼穂長は、シラネコムギが0.1mmで前年差-0.1mm、夏黄金が0.2mmで前年差±0.0mmであった。幼穂形成始期には達していない。

表1 生育状況

品種	区別	草丈(cm)			茎数(本/m <sup>2</sup> )			葉数(枚)			葉色(SPAD値)		
		本年	前年比(%)	平年比(%)	本年	前年比(%)	平年比(%)	本年	前年差	平年差	本年	前年差	
大麦	シュンライ	中甸播種区	6.6	51	57	456	47	48	5.9	-0.6	-0.2	38.1	+2.9
		下甸播種区	5.3	70	70	243	43	39	4.6	-0.2	+0.1	43.4	-0.8
	ミノリムギ	中甸播種区	8.1	57	66	595	60	59	6.3	-0.2	-0.1	44.4	+12.6
		下甸播種区	5.6	62	69	167	19	24	4.5	-0.3	-0.3	45.4	+1.2
	ホワイトファイバー	中甸播種区	7.1	58	-	467	51	-	5.8	-1.0	-	41.7	-3.7
		下甸播種区	5.4	69	-	331	52	-	4.7	-0.9	-	46.3	+4.6
小麦	シラネコムギ	中甸播種区	9.5	64	75	915	91	92	6.0	-1.0	-0.8	40.5	+3.8
		下甸播種区	8.2	80	81	247	45	39	4.8	-0.7	-0.1	40.6	+0.3
	夏黄金	中甸播種区	8.2	71	78	656	67	72	6.4	+0.1	+0.2	47.1	+7.9
		下甸播種区	6.5	75	77	239	44	51	5.0	+0.2	+0.5	43.1	-2.6

- 注1) 中甸播種区は令和7年10月22日播種、下甸播種区は令和7年10月30日播種。条間25cmドリル播き、播種量は中甸播種区が9.0kg/10a、下甸播種区が10.0kg/10a。
- 注2) 平年値は過去7か年のうち最高値、最低値を除いた5か年の平均。草丈と茎数については、積雪で未調査の年があったため、平年値は調査を実施した過去6か年分の平均値とした。前年比・差、平年比・差はそれらとの比較。
- 注3) ホワイトファイバーは令和6年播種(令和7年産)から調査を開始したため平年比・差はない。
- 注4) 草丈と茎数、葉色は各試験区の調査区画(1m×2条)の3か所の平均値。
- 注5) 葉色はSPAD502plus(コニカミノルタ社製)を用いて計測した。令和6年播種(令和7年産)から測定を開始したため平年差はない。
- 注6) 葉数は各試験区の中甸な株6株の平均値。

表2 幼穂長及び幼穂分化程度

品種	区別	幼穂長(mm)			幼穂分化程度	幼穂形成始期			
		本年	前年差	平年差		本年(月/日)	前年(月/日)	平年(月/日)	
大麦	シュンライ	中甸播種区	1.3	-1.1	-0.4	VII	2/4	1/6	1/13
		下甸播種区	0.5	-0.5	-0.3	V未満	-	2/19	2/27
	ミノリムギ	中甸播種区	0.8	-1.0	-0.7	VII	-	1/20	1/28
		下甸播種区	0.3	-0.5	-0.4	V未満	-	2/21	2/27
	ホワイトファイバー	中甸播種区	1.0	-1.4	-	VII	2/9	1/7	-
		下甸播種区	0.4	-0.6	-	V未満	-	2/17	-
小麦	シラネコムギ	中甸播種区	0.2	-0.3	-0.2	V未満	-	3/10	3/2
		下甸播種区	0.1	-0.1	-0.1	V未満	-	3/15	3/16
	夏黄金	中甸播種区	0.2	-0.3	-0.2	V未満	-	3/14	3/3
		下甸播種区	0.2	0.0	0.0	V未満	-	3/18	3/17

- 注1) 中甸播種区は令和7年10月22日播種、下甸播種区は令和7年10月30日播種。条間25cmドリル播き、播種量は中甸播種区が9.0kg/10a、下甸播種区が10.0kg/10a。
- 注2) 幼穂長は、各試験区の中甸な株6株における主茎と1号分げつ、2号分げつの幼穂長の平均値。
- 注3) ホワイトファイバーは令和6年播種(令和7年産)から調査を開始したため平年値はない。
- 注4) 平年値は過去7か年のうち最高値、最低値を除いた5か年の平均。前年差、平年差はそれらとの比較。
- 注5) 幼穂分化程度: V期未満は省略。
- 注6) 幼穂形成始期: 幼穂長1mmに達した日。

【参考】麦類の幼穂分化程度と幼穂長(mm)

品種	苞分化期	小穂分化期				穎花分化期	
	V	VI	VII	VIII	IX	X	
小麦(シラネコムギ等)	0.5	0.5~0.6	0.6~1.0	1.0~1.2	1.2~4.0	4.0~5.0	
大麦(シュンライ等)	0.5	0.5~0.7	0.7~1.5	1.5~2.0	2.0~4.0	4.0~5.0	

- 注1) 幼穂分化程度はI~Xの10期に分類されるが、V期以前は外部形態による判定が困難であるため省略した。
- 注2) 厳密にはVII期は前期と後期に、IX期は前期、中期、後期に区分される。

令和7年播種（令和8年産）麦類生育調査ほ生育状況〔2月10日付調査結果〕

表3 麦類生育調査ほ 生育状況

担当普及センター	品種	実施場所	播種期	草丈(cm)			茎数(本/m <sup>2</sup> )		
				本年	前年比(%)	平年比(%)	本年	前年比(%)	平年比(%)
大河原	シュンライ	角田市島田	11/6	7.8	236	—	335	335	—
	ホワイトファイバー	大河原町金ヶ瀬	11/13	7.0	149	—	292	57	—
仙台	ホワイトファイバー	仙台市宮城野区	10/20	6.8	—	—	282	—	—
大崎	夏黄金	大崎市古川	11/8	8.0	—	—	255	—	—
美里	シラネコムギ	大崎市鹿島台	11/29	5.9	109	—	474	143	—
	夏黄金	涌谷町猪岡	11/11	7.7	84	90	291	62	60
登米	あおぼの恋	登米市豊里町	11/6	8.5	92	89	286	65	108
石巻	シュンライ	石巻市桃生町	11/18	7.1	62	53	162	24	21
	ミノリムギ	石巻市桃生町	10/25	8.0	63	69	262	26	32
	シラネコムギ	石巻市桃生町	10/31	11.0	79	—	275	44	—

担当普及センター	品種	実施場所	幼穂長(mm)			葉色(GM値)
			本年	前年差	平年差	本年
大河原	シュンライ	角田市島田	0.1	0.1	—	50.7
	ホワイトファイバー	大河原町金ヶ瀬	0.1	0.1	—	49.2
仙台	ホワイトファイバー	仙台市宮城野区	0.9	0.9	—	33.5
大崎	夏黄金	大崎市古川	—	—	—	42.0
美里	シラネコムギ	大崎市鹿島台	—	—	—	—
	夏黄金	涌谷町猪岡	—	—	—	—
登米	あおぼの恋	登米市豊里町	0.0	0.0	-0.2	35.3
石巻	シュンライ	石巻市桃生町	0.4	-0.5	-1.2	38.6
	ミノリムギ	石巻市桃生町	0.7	-0.7	-0.4	43.3
	シラネコムギ	石巻市桃生町	0.1	-0.1	—	38.1

- 注1) 平年値は、過去7か年中の最高値と最低値を除いた5か年分の平均値で、平年比(差)は平年値との比較。  
 注2) 大河原「シュンライ」は令和6年度播種から調査値変更のため、平年値(比・差)はない。大河原「ホワイトファイバー」は、令和元年播種から調査のため、平年値(比・差)はない。  
 注3) 仙台「ホワイトファイバー」は、令和7年度播種から調査のため、前年値(比・差)、平年値(比・差)はない。  
 注4) 大崎「夏黄金」は、令和7年度播種から調査のため、前年値(比・差)、平年値(比・差)はない。  
 注5) 美里「夏黄金」は令和元年度播種から調査地変更のため、平年値(比・差)はない。  
 注6) 石巻「シラネコムギ」は令和5年度播種から調査地変更のため、平年値(比・差)はない。  
 注7) 「—(欠測)」は未調査であることを示す。  
 注8) 幼穂長において、観察の結果幼穂が確認できなかった場合は0.0と示す。

<生育調査ほの状況等>

大河原「シュンライ」、「ホワイトファイバー」

- ・調査前まで低温状態が続き、降雨も少ない。
- ・2月9日調査では雪害、凍害はない。大河原町の「ホワイトファイバー」でハクチョウの食害が広範囲で見られる。各群30羽程度×3群が生育の早いほ場からほとんどの株を食べている状態である。

仙台「ホワイトファイバー」

- ・12月から気温は概ね平年並で推移したが、1月下旬は平年より低温となった。また、12月中旬以降、降水量は少なく推移した。
- ・2月10日現在の生育量は、草丈6.8cm、茎数が282本/m<sup>2</sup>となっている。
- ・幼穂長は0.9mm。数日で幼穂形成期に入る。
- ・一部、葉が黄化していた。

大崎「夏黄金」

- ・ほ場全体の平均は1.5葉程度
- ・鳥害(ガン)による被害を受けている(被害程度:小)

- ・幼穂は確認できなかった

#### 美里「シラネコムギ」「夏黄金」

- ・「シラネコムギ」は2～2.5葉期。昨年より播種日は1日、出芽日は13日早かった(12月22日出芽)。鳥害は見られない。
- ・「夏黄金」は3～4葉期。1月上～中旬に鳥害を受けた。低温、乾燥の影響もあり茎数が少ない。

#### 登米「あおばの恋」

- ・降雨がほとんどなく、ほ場は乾いている。
- ・鳥類の食害により、草丈が5cm程度になっている部分が多い。
- ・幼穂はまだ確認できない。

#### 石巻「シュンライ」「ミノリムギ」「シラネコムギ」

- ・12月下旬は、気温が平年よりやや高く、降水量・日照時間は平年並みであった。1月以降は降水量が少なく、ほ場は乾燥した状態が続いた。気温は1月中旬・2月上旬で平年を上回り、1月下旬は平年を下回った。日照時間は1月上旬で平年を下回り、1月下旬は平年を上回った。
- ・鳥害は「シュンライ」、「ミノリムギ」で被害が大きい。調査ポールの部分は比較的被害が軽く、ほ場全体の生育は調査結果より悪い。
- ・2月10日現在の生育は、草丈は「シュンライ」が7.1cm、ミノリムギが8.0cm、シラネコムギ11.0cmと平年より短い。茎数はシュンライが162本/m<sup>2</sup>、ミノリムギが262本/m<sup>2</sup>、シラネコムギが275本/m<sup>2</sup>と平年より少ない。
- ・幼穂長はシュンライ0.4mm、ミノリムギで0.7mm、シラネコムギが0.1mmで、平年よりも生育ステージは遅れている。
- ・シラネコムギほ場では株直し追肥、鎮圧済み。